第 19 号
2021.3.20

シニアの学び舎

レイカディア大学だより　米原校

シニアが新しい教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるよう支援しています

文化委員長：大学祭開催への思い

　コロナ禍で開催が危ぶまれたなか、学生・卒業生が待ち望んでいた大学祭が実施された。文化委員長の大堀和雄さんから大学祭設営当日、大学祭開催にこぎ着けた思いを聞いた。

　「コロナ第３波が来て大学祭開催が危ぶまれ、『中止するのか、開催するとしても時期はいつにするか』学生たちの考えは大きく揺れた。難問に直面し諸事情を考慮して開催日は３月とした。しかし、コロナは収まることなく決断は更に揺らいだ。そこで、在校生による開催の賛否を問う投票を実施した。結果は『**開催**』に決定した。１年生には大学祭を体験してもらって、次に伝えてもらいたいという思いが強かった。**２年生と１年生そして卒業生との縦のつながり、園芸・北近江・健康づくりの３学科の横のつながりがあればこそ開催できた**」

　「出し物を絞り、展示と余興はビデオでの上映とした。学生は力を合わせ自主的に撮影して準備ができた。１年生は、半年間休講になってどうすればよいか分からない中、熱心に学習や準備をしていたようだ。開催を迎えた今、この大学祭を在校生・卒業生ともに楽しむ予定だ」

　最後に、１年生から大堀さんに届いたというメールを紹介してくれた。

　「『**２年生は最後の大学祭、１年生は初めての大学祭で、準備に励みそれぞれの役割をこなしてクラスが団結できた。良い機会を与えてもらってありがとう**』と感謝された」と、大堀さんは感動しながらメールを読んだ。我々編集委員も万感の思いが錯綜し大いに感激した。

４１期生が取り組んだ課題学習

（文章は課題学習報告書を読んだ編集委員の感想）

園芸学科

課題名**「園芸技術（スキル）の向上」**　プロジェクトV(ﾌｧｲﾌﾞ)２０１９

長浜市湖北町伊部にあり北国脇往還の宿駅であった歴史スポットが活動場所となったのは、本陣ご当主はじめ関係者がレイ大卒業生というご縁から。道路沿い正門前庭園の伐採・整地から始め、竹垣や竹製ベンチの製作設置・日本庭園風植栽・果樹ポット・中庭の剪定も実施。グループ名「ファイブ」は、継続５年を意識した名称とのこと。YouTube からの情報だけで本格的な竹垣２種（１種は可動式）を作製したのは見事だ。（H．K）

課題名**「多賀さとの宿『一圓屋敷』景観整備」**　よい樹「三五の会」

彦根周辺居住者８名（女３・男５）がチームとなり築170年江戸時代後期の庄屋屋敷（広大な敷地1670㎡の生垣・玄関中庭の庭園・裏庭の剪定と整備、さらに花壇や庭園の池の再生にいたるまで）を総合的に景観整備。その整備も剪定の難しい箇所（手つかずの徒長枝が大きく伸びた箇所や７ｍの高木に育ったマキ・シイの樹など）まで、ヘルメットと安全帯着用で剪定し終えているのは、実力あるメンバーが仲間にいた証しだ。（H．K）

課題名**「『水茎の里』いこいの場づくり」**　レイカ七幡ズ

近江八幡市水茎に所在する老人ホーム「水茎の里」の背後は広大な竹林に覆われている。この一角の竹林を伐採剪定し、110㎝に切りそろえた竹垣を作成。さらに小イベントを開催できる土の土台に竹材装飾した舞台づくり（ホーム食堂からも見える）がなされた。近隣の水茎岡城跡や藤ケ崎神社も視野に入れる文化的センスや、グループ名を近江八幡市居住者７名から地名をもじって「七幡ズ」としたユーモアが今後も楽しみだ。（H．K）

北近江文化学科

課題名**「明智十兵衛光秀 謎多きルーツに迫る」**　佐目の十兵衛

「麒麟がくる」で一躍有名になった「明智光秀」のルーツに迫った課題学習。５人の歴男歴女が、光秀の出生地を「淡海温故録」を手掛かりとして探り、「光秀とは?」「こんな解釈では」とワクワクしながら検討された姿が目に浮かぶ。また、心躍らせながら佐目の地へ出かけ、「十兵衛屋敷」跡や「カミサン池」などを巡り、互いに頷きながら確認する度に、メンバーの絆が一段と強まっていったのではないかと思われる。近くなので、もう一度、詳しく訪問してみたい。（T．F）

課題名**「湖北の鯖街道と鯖の食文化について」**北近江をこよなく愛する会

「鯖街道」は、小浜から朽木を経て京に至る若狭街道のことを指すのが一般的。湖北地方の鯖の食文化に目を付け課題に選ばれている。実際に熊川宿や伊部宿など関連の土地や本陣跡などを探訪し、鯖寿司・焼き鯖・焼き鯖ソーメンなど、調理方法についての聞き取りや鯖料理の試食など充実した内容である。また、京と近江の市場経済の比較など多岐にわたる調査と考察までされ、メンバーが楽しく学習されている様子がよくわかり、探訪したい場所ばかりである。（T．F）

健康づくり学科

課題名**「体力・気力・知力の充実」**　エール（Yell）

「体力、気力、知力の充実」をテーマに取り組んだアウトドア派の３人。コロナ禍の中でも、作戦を立て協力してチャレンジした実践体験（マラソン・登山・永源寺参拝・ウォーキング・写経と納経・漢字能力検定・+α・新聞TOP記事のスクラップなど）は、３つの力の必要性と伸びしろの可能性を証明できたものとなった。卒業後もこの経験を生かして充実した日々を送ってほしい。自分にエール！　みんなにエール！（K．M）

課題名**「施設訪問で健康づくりを支援」**　おーきによいこ

レイ大先輩から「銭太鼓」の技を受け継ぎ、各自が銭太鼓と衣装や毛氈を手作りし、練習を繰り返して施設訪問で披露した。この達成充実感がボランティア活動のよき源泉となり、今後の活動の継続と仲間の絆が一層強まることを期待する。訪問先のニーズに合わせた演目のスキルアップに努め、ハイキングなどの気分転換にも取り組んだことはよかった。（K．M）

卒業生の地域活動の紹介

「えがお一座と四ツ葉のクローバー隊」

32 期生活科学学科卒生

今回取材させていただいたのは、32 期生活科学学科卒の屋宜芳孝さんと安藤美智子さんのお二人。

レイ大でのボランティア体験から始まった「えがお」一座の総勢 11 名（男性４名、女性７名）の訪問活動は、現在も４施設で年間４回の継続した活動をしている。これが 10 年以上も続けられているのは、一座の団結力と楽しさにあるようだ。訪問先の皆さんの笑顔・拍手・手拍子、時には感涙を見ると、とにかく歓迎されていることが分かり、これが活動を継続する原動力となっている。一座の出し物は、手品・みんなで歌おう・銭太鼓・よさこい・手踊り・紙芝居映写・よし笛演奏など多彩で皆さん芸達者である。

歌唱を担当する「よっちゃん」と「みっちゃん」

この中の歌唱を担当しているのが、ギターの「よっちゃん」（屋宜さん）と語りや歌唱の「みっちゃん」（安藤さん）の『四ツ葉のクローバー隊』だ。このお二人は一座の訪問と並行して、今や 11 年目になる活動を続けている。コロナ禍までは年間 100 回を超える施設や地域サロンの訪問をはじめ、５年前からは「うたごえ広場(幸せの扉)」を八日市・能登川・愛荘町の会場で毎月交互に継続中で、大阪の長寿会へも年４回など市外施設へも不定期に訪問している。

クローバーの葉には、希望・誠実・愛情と４枚目は幸運を意味しているという。隊の名称も皆さんの笑顔から命名した。これからも“一緒に歌って幸せになろう”を合言葉に、ボランティア活動を精力的に継続・拡大していきたいと意気盛んだ。ただ、悩みは「懐かしの歌も訪問先の年代層に応じた選曲更新が必要」と言われる。

「レイ大をきっかけにしたボランティア活動に関われたことを誇りに思い、このことが生きがいです」と胸を張って言われる。頭の下がる思いで話を聞き感服した。（取材：K.M）

「能登川園、心待ちの門松づくり」

38 期園芸学科卒生

特養老人ホーム能登川園の職員と入所者は心待ちにしていることがある。それは季節毎の花々が咲くことと正月の門松を飾ることである。38 期園芸学科卒業生はこの要望に応え、課題学習後の活動にグループを超えた人が参加している。レイ大の先輩達が先達となってボランティア活動が始動し、途切れかけたのを契機に現グループの責任者、新谷稔さんが課題学習で取り上げ、再出発した。

門松づくりの作業に 38 期から 40 期までの 16 名の卒業生が参加した。門松の竹は、先端を正確にスパッと斜めに切るには電動鋸があれば便利。本職の電動工具を持つ人もいて、正統な門松づくりを目指している。作業は大勢の手を借りて順調に進む。昼までに 12 本の大門松が完成した。

事前に、太い竹・根付き葉ボタン・松・梅・南天を調達して本日の作業にこぎつけている。ひとくちに門松を作るといっても、これだけ（写真）の豪華な門松を作るには物の調達に大層な時間が掛かる。良いものを作りたいという皆さんの熱意に感服だ。

その熱意を感じ取ったか、門松を施設のひとつ「のとがわ」の玄関へ設置に行くと、女性職員が小走りに破顔一笑、「今年も立派な門松をありがとうございます」と丁重にお礼を言われた。職員も入所者も「これで、新年を気持ちよく迎えられる」と新たな心の切り替えを期待しているようだ。活動の相手先に喜んでもらえる、これこそが作業参加の原動力になっている。新谷さんは「地域社会への貢献が人生の励み」と言う。

能登川園でのこれから先の活動の継続を考えると、結束力のある能登川地区ではレイ大の卒業生（の内 14 名参加）だけでも十分に継続していけそうだ。地域に根差した高いボランティア意識を持つ人たちに称賛を送りたい。（取材：トマト）

完成した立派な門松（赤い実は南天）

「絵に打ち込んで二科展で入賞するまでになった」

31 期園芸学科卒　土川豊男さん

わたし達年寄りの夜の過ごし方はどうしているのだろう。コロナ禍の昨今、自宅待機を余儀なくされ、ゲームに興じる人が増加しているとマスコミ等では報じている。まさか、年寄りがゲームに夢中になる図は予想し難い。この項では、夜に真摯に趣味に打ち込む人を紹介したい。

米原市在住のレイ大 31 期卒の土川豊男さんがその人だ。お会いして、そのきびきびとしたふるまい言動はやはり何かを成す雰囲気をお持ちで、「いろんなことに挑戦する意識を持ち、幼少期から絵が好き」なのもその表れだ。「10 年ほど前から絵の教室に通い出し、二科展の応募は教室の先生の薦めで出品した」その結果、連続 4 年入賞。これは本物だ。絵には笑みを浮かべた騎手の顔と馬の必死に走る形相が描かれ、絵画の中に人馬を旨く捉えている。この 4 年は馬を題材に、その表現は人や背景をぼかし馬に照準を合わせた絵も描かれ、一貫した題材に絵画手法を駆使して、その場の馬の表現を追求していく探求心は称賛に値する。

年間 3 枚ほどの絵（80～100 号）を、二間をぶち抜いた自室で夜中に仕上げる。「絵に打ち込めばノイローゼにもならんし、絵を売ってお金に換えることなくのめりこんでいる」と土川さんは言う。

第 104 回二科展入選作品
「足伏走馬」

皆さん、どうですか？これからの人生に日々、悶々としている読者がおられたら、自分の居場所を決めて、打ち込める何かを探されればどうだろうか。筆者は日常無為に過ごしている時間も多い。土川さんにそれとなく打開策を求めたら、どうやらやりたいことに向き合う強固な意志を持つことが肝要だということを悟った。（取材：トマト）

サポートの会活動の紹介

★サポートの会ホームページを見てみよう★

サポートの会のホームページが整備され、目的の画面にたどり着きやすく、内容も充実してきた。下の QR コードをスマートフォンで読み取ると、その活動状況を読むことができる。さあ操作してみましょう。

【園芸学科部会】 2020 年 10 月 19 日 **さざなみ学園内の樹木の剪定作業**

- 園芸学科部会の交流事業として実施
- 園内の大量の樹木が午前中にきれいに仕上がった。

【北近江文化学科部会】 11 月 9 日 **日野・信楽方面へ同窓の集い**

- 北近江文化学科 35~40 期の同窓生と在校生の交流を目的に企画
- 蒲生氏郷の生地、日野の史跡、中野城・信楽院などを探訪、NHK 朝のドラマ「スカーレット」の舞台となった信楽を訪問した。

【健康づくり学科部会】 10 月 22 日 **荒神山で愉しもう**〖写真①〗

- コロナ禍により例年のニュースポーツ大会の代替として開催
- ついつい、紙飛行機づくりに没頭してしまった。ペーパークラフト紙飛行機を飛ばす先に、孫の顔が浮かぶと笑顔がわき、子供時代に帰ることができた。家に帰れば孫と遊べる爺とバアだ。

【健康づくり学科部会】 12 月 1 日 **史跡探訪 DE 健康ウォーキング**

- 米原校の近くに、様々な歴史文化遺産が点在していることを初めて知り、米原再発見の 1 日だった。〖写真②〗
- この日の約 15,000 歩では、健康増進には少し物足りなかった。

【レイカディアの日プロジェクト】 12 月 12 日 **愛知川の愛林作業**

- 6 月の大々的な活動が中止、県の 12 月の竹林整備に協働した。
- ねっとりした焼き芋で暖を取り、小型の門松づくりは芸術品張りのでき栄えだ。来年も継続する意義あり。〖写真③〗

写真①

【視線の先の飛行機に釘付け】

写真②

【ここは機関車の退避壕】

写真③

【玄関に置けそうだ】

レイカディア大学だより米原校 2021 年 3 月 20 日第 19 号
発行：滋賀県レイカディア大学(☎0749-52-5110)
米原校サポートの会(広報・情報室)
■ 米原市下多良 2-137
(県立文化産業交流会館内)
■ 米原校サポートの会ホームページ：
http://lacamaibara.com/support/index.html

≪編集後記≫

ウィズコロナ。当分はこれが当たり前の世かもしれない。自治会では苦渋の決断を強いられ催しは中止が多い。その中にはコロナ下での行動規範を守れば挙行できるものがある。わたし達の地域活動も行動に気を付けて、継続した活動を模索したい。大学祭実施は規模縮小と来場者制限等の制約を学生自ら設け実現したたまものだ。わたし達卒業生は在校生から気づきを頂戴したことになった。